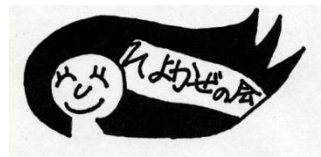


そよかせ便り



NO.37 平成 23年9月30日発行

編集：中央東地区農村女性リーダー協議会（そよかせの会）

協力機関：中央東農業振興センター

「農村女性リーダーと青年農業士 5月16日
農産物地産地消PR活動 in 高知県立大学

今年で3回目になるこの企画、新たに高知県立大学となりましたが、青年農業士13名、女性リーダー14名、振興センター5名で、農産物地産地消PR活動・出前授業に行ってきました。



おなじみの食育紙芝居、青年農業士さんの生産現場の説明

（今年は、土佐山田町永森さんのやっこねぎでした）、そして今年は、Tシャツも揃えた「やさい体操隊」が現れ、学生と大盛り上がりで踊りました。そして、学生と一緒に各テーブルに別れ、簡単な野菜料理の実習を行い、その後試食をしました。各テーブルごとに話も弾み、貴重な体験となりました。

【女子大生の感想】…アンケートより

- ☆一緒に料理を作る時、農業や調理の“豆知識”などいろいろな話が聞けて良かった。
- ☆簡単で美味しい料理が作れたのでビックリしました。
- ☆高知やさい体操、すごく楽しかった。絶対流行ると思う。 などなど…



【リーダーの反省として…】

- ・搬入場所の確認、材料のチェックなど細かい点まで詰めて、最終的な総合点検が必要では??
- ・来年に向けて、ステップアップを目指し、この活動が、ますます充実し飛躍できるように頑張しましょう。



今回は、活動・研修の報告記事で、紙面がいっぱいに…（汗）。
“読み応え”のある号になってしまいました。

が、たまには「ヘビー級のそよかせ便り」にもお付き合い下さいませ…。次回号も、こう御期待！お楽しみに！

編集委員：山本（美）・村田・江本・小野寺・山本（昇）・
入野・柳本・竹村・吉川 でした。

梶原町へ“視察研修”に行ってきました！



真夏の太陽が眩しく、うだるような暑さの続いていた8月11日。

その日は、『よさこい祭り』の最中で、高知県全体も熱かった、そんな日に、私たち中央東地区農村女性リーダー10名と振興センター職員2名(リーダーの事務局担当)は、“紙漉(かみすき)体験民宿”と

“農家民宿”の2ヶ所にて、経営者の方にお話を伺いに行きました。

“梶原和紙&紙漉体験民宿 かみこや”は、オランダ生まれのロギールさん、関西育ちの千賀子さん(日本の方ですよ)夫妻と、数年前から“かみこや”に魅せられ、住み着いて(笑)民宿を手伝っているという、フミちゃん(兵庫出身)で営んでいます。

この日、最も楽しみにしていた、2時間の“紙漉き体験”をしました。

“かみこや”での体験は、単なる紙漉の一工程(木枠を両手に持ち、水の中に入れてジャブジャブとする…)のみではなく、まずは、和紙の歴史や、梶原でのコウゾ・ミツマタ栽培の今昔など、ロギールさんの流ちょうな日本語で説明を聞き、それから、いよいよ、紙にするために、蒸して、皮を剥ぎ、柔らかくし、さらに水にさらして白くなったひとかたまりのコウゾを、叩いて、細かい繊維にする工程から”体験スタート”です。



トントントン・トン！ トントントン・トン！！ これが、昔どの家庭からも聞こえた「紙漉の音」だそうで、最後のトン！に力を込めて、まんべんなく、ほぐしていきます。

そして、叩き終わったら、梶原のキレイな水に入れて、よく手で攪拌し、ザルで漉すと、さっきよりは白っぽい繊維に。それを、またキレイな水に溶かすと、紙漉のベースは準備完了。



さあ、いよいよ お待ちかねの紙漉きか！！

と、その前に、ロギールさんの「では、今から 少し散歩に行きます。」

みんな、頭から「？？？」が出て…。

「紙に漉き込む草花を 摘みに行きましょう！」と…。しばし、裏山を散策。

何気ない、どこにでもある草花や、枯れ葉が、世界で1つの芸術作品(?!)になるかも・・・となれば、皆 真剣に摘み取り、いよいよ、紙漉に・・・。

画用紙くらいの木枠に、ひしゃくで流し込むやり方で和紙作りも、想像とは違いビックリしました。が、このやり方は、何千年も前からある紙漉の手法だそうで、失敗も少ないとのこと。



とは言え、いい作品に仕上げたい一心で、ロギールさんや、フミちゃんに手解きを受けつつ、『オリジナル橋原和紙』の完成！

木枠から丁寧に外し、ロギールさんから一人一人の作品への寸評まで頂き、心のこもった体験プログラムに、みんな大満足でした。



紙漉を通じて、日本各地の中から高知県・橋原町を「ターンの地」と選んだ ロギールさん夫妻。まずは、夫妻自身が、ご苦労されながらも地域と繋がり、さらに、紙漉体験に訪れる人々と地域を繋げ、今では、高齢化した中山間の暮らしを支える、無くてはならない、中心的存在にまでなっています。

2人の、「本業は 紙漉きだから」と言える『崩れない、ぶれない生き方』が、口コミ・リピーター客のこころをつかむのでは？と感じ、私たちも すっかり、“かみこや・橋原ファン”になりました。



そして、2000年4月に県内初の農家民宿『いちようの樹』の経営者・上田知子さんを訪問。開業を決意した経緯や苦労した点、さらには、やりがいでもあるお客様との数々の交流など、貴重な体験談を聞かせていただきました。

このような形での研修を初めて計画したので、南国市などでは、稲刈り作業の時期と重なり、参加できなかったメンバーも多数いました。逆に、香南市など施設園芸地帯は、作が始まると、秋～初夏までは、なかなか時間が取れず、中央東エリアの最大の悩みです。

が、時期を変えつつ、参加できる機会を増やして、メンバー同士の親睦・情報交換の場としても『気軽に集える研修を企画できたらいいなあ』と、改めて思いました。

明日からまた頑張ろう！！ と、パワーをもらえた 日帰り研修でした。



そよかぜウォッチング in 野市

6月16日、梅雨らしい日々が続いている中、毎年恒例の『そよかぜウォッチング』がありました。毎年、各地区(旧市町村単位)で、研修内容を計画。今年は、野市地区の5名が担当。自分たちの地区を案内しながら、圃場見学や、名所・旧跡なども訪ね歩く、リーダーの研修の中でもとても人気があり、今年は何かと多忙な中でも14名が参加。

“来たかったけど、どうしても都合がつかざった・・・(涙)”という声も 聞こえてきました。



研修内容は、まず、JA 土佐香美野市支所・出荷場見学。出荷場を統括するセンター長の説明で、今が旬の『早堀甘藷』や『シントウ』のバック詰め作業、5℃の冷蔵庫の中、真冬の格好で日本一の出荷量を誇る『ニラ』の荷姿を、一箱ずつチェックする様子などを見学しました。たくさんの質問が飛びだし、時間が押してしまうほど熱心なみんなの姿でした。

次の研修先は、全国的にも注目されている地方市場(株)赤岡青果市場の視察。

女性の大先輩でもある会長の水田幸子さんより、貴重なお話を頂きました。

そして、野市でお勤めのランチを堪能した後は、この日のメイン研修、花卉(トルコギキョウ・ブプレウラム、ひまわりなど)を栽培する M さんちの視察。

今年、新しくハウスも建て、常時雇用の確保もし、経営者としてもご主人と頑張っている、そんな仲間が、いつも以上にキラッと輝いて見えました。



最後の研修メニューは、M さんちのトルコギキョウや、花卉農家のお仲間が提供してくれた花々で、『フラワーアレンジメント』をしました。優雅な気分では・・・と言うよりは、かなり真剣な眼差しで、この日一番の“静寂”が流れました。

ちょっと無理してでも時間を作って、仲間達と集うことは、『何万倍もの元気と勇気』をもらえ、また、仕事に向き合える。女性リーダーの果てしない Power に万歳！

